

習を展開していく。

ア 児童生徒の主体的な学習活動の場をできるだけ多く設定する。

イ 学習過程において問題解決的な学習や体験的な活動を重視する。

ウ 児童生徒の側に立って各教科等間の関連を図った学習指導を展開する。

(2) 学習指導の弾力的な展開

児童生徒が自分のよさを発揮し、自ら進んで学ぶ学習指導では、従来の形式を見直し、学習の流れや形態、学習時間などに柔軟に対応していくことが大事である。

ア より効果的な学習の方向や方法に修正していくために複数案を準備しておく。

イ 学習活動を充実させるための学習形態や学習の場などを各学校の実情に応じて検討しておく。

ウ 体験的活動にじっくり取り組ませたり、反対に、学習意欲を損なわないよう短時間で学習作業の手順を指導したりするなど指導目標に応じて学習時間等を弾力的に設定する。

(3) 教材選択等の工夫

児童生徒が自ら考え、判断し、表現するためには、自校や地域の特徴が反映された魅力的な教材を選択し

たり、開発したりする必要がある。

ア 複数の教材や地域素材の適時性などを考慮した教材を準備する。

イ 教科書には標準的な教材が準備されているが、それを中心としながら児童生徒一人一人に応じる弾力的な活用の仕方等を工夫する。

(4) 教職員や児童生徒のよさを生かす工夫

ア 諸教育活動の中で教職員と児童生徒、児童生徒相互の人間関係を豊かにし、お互いのよさに共感しあうことができるよう配慮する。

イ 教職員のよさを積極的に生かすことよって、児童生徒のよさを高め豊かにする観点に立つて学習活動を計画する。

○T・Tの導入

○交換授業の工夫

○養護教諭や学校栄養職員などとの連携 など

ウ 異年齢の児童生徒や他の学校の児童生徒とのかかわりを重視した場の設定に配慮する。

(5) 家庭や地域社会のよさを生かす工夫

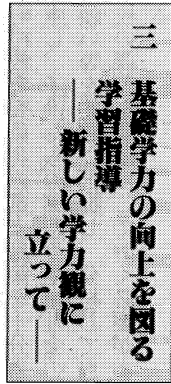
特色ある教育課程を展開していくには、学校、家庭及び地域社会の教育力を相互に高めあい、活用しあうために次のような取り組みも大切と

なる。

ア 学校の実情に応じて、地域の自然や社会などの素材を教材化する。

イ 地域の文化施設や文化財、自然環境などを積極的に利用する。

ウ 地域社会の人々に教育活動が理解されるよう工夫し、協力を要請する。



1 新しい学力観に立つ学力

新しい学力観に立つ学習指導においては、児童生徒が自ら意欲をもって学習に取り組み、自ら考えたり、判断したり、表現したりするなどの活動を通して諸能力を身に付け、それらの学習の結果、知識・理解、技能を確かに身に付けていくことが求められている。

こうしたことから、新しい学力観に立つ学力は、児童生徒の学習への興味、関心、意欲、態度などの「学ぼうとする力」、思考力、判断力、表現力などの「学ぶ力」、学習の成果として身に付ける知識・理解、技能などの「学んで得た力」の三つの力としてとらえることができる。

これからは、これら三つの力を総合的に高めることを重視して学習指導を進めることが大切である。

2 基礎学力のとらえ方

各教科の学習内容は、教科独自の知識や技能の体系と構造を持っている。

それらを適切な指導に基づき系統的、構造的に身に付けることは、新しい学習対象への興味、関心、意欲を高めたり、思考力、判断力、表現力を発揮したりして、新しい学習内容を豊かに学んでいく際の重要な学習の基盤となる。

したがって、学習指導の各段階において、その後の学習を進めていくために不可欠な知識・理解、技能を精選するとともに、その系統性や発展性を明確にし、確実に身に付けさせていくことが大切になる。

以上のような考えを踏まえ、本県では基礎学力を次のようにとらえ、その育成に努めていきたい。

「基礎学力」は「児童生徒が獲得した基礎的・基本的な知識・理解や技能であり、それらをその後の学習のなかで活用し得る力」

3 基礎学力向上自校プランの作成

いま、我々が基礎学力の向上について取り組むべきことは、情意面と